

## 執筆者紹介

### KOMOVA Ekaterina (コモバ エカテリーナ)

(コロンビア大学東アジア言語・文化学部 博士課程  
早稲田大学文学学術院 リサーチ・フェロー)

コロンビア大学東アジア言語・文化学部 博士課程に在籍し、2018年より、早稲田大学文学学術院にリサーチ・フェローとして在籍。研究分野は日本古典文学。現在、博士論文の仮題を『「源氏物語」における情動性と感情共同体、ならびにその享受史』(“Affect and Emotional Communities in *Genji monogatari* and its Reception”)として、特に『源氏物語』と和歌を中心に研究している。

### 馬 如慧 (マ ジョケイ)

(北京外国語大学日本学研究センター 博士後期課程  
早稲田大学文学学術院 リサーチ・フェロー)

北京外国語大学日本学研究センターの文学コースで修士号を取得し、同大学の博士後期課程、三年生である。現在は、早稲田大学にて、リサーチ・フェローとして、陣野英則教授のもとで研究を進めている。主に「ジェンダー」の視点から研究をしており、博士論文のテーマは『「源氏物語」における女性作者の叙述論理』である。

### GERLINI Edoardo (ジェルリーニ エドアルド)

(カフォスカリ・ヴェネツィア大学 研究員  
早稲田大学文学学術院 訪問学者)

2011年にヴェネツィア大学日本文学専攻博士課程修了。現在、欧州委員会の「マリー・キュリー」フェローシップでカフォスカリ・ヴェネツィア大学に所属しながら、早稲田大学に訪問学者として所属。平安文学を中心に、和漢比較、和歌・漢詩、菅原道真、世界文学、遺産研究などを研究してきた。2011～13年、東京大学にて日本学術振興会特別研究員として、平安朝詩歌と13世紀の中世イタリアの宮廷詩人という比較研究を行い、2017年に国際日本文化研究センターにおいて勅撰集編纂と政治的意志の関係を研究した。

### **BUGNE Magali (ビューニユ マガリ)**

(早稲田大学文学学術院所属 日本学術振興会外国人特別研究員 PD(JSPS International Research Fellow)

日仏会館・フランス国立日本研究所 (UMIFRE19 フランス外務省・国立科学研究センター) 連携研究員)

2017年にストラスブール大学で博士課程を修了。2012年日本政府、文部科学省の奨学金を受け、特別研修生として早稲田大学の文学研究科に入学。2018年に連携研究員として日仏会館・フランス国立日本研究所に入り、同年、日本学術振興会外国人特別研究員として勤務。研究分野は演劇学、文学理論等。

### **李 澤珍 (イ テクジン)**

(東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化コース 博士課程)

専門は日本近世・近代文学、特に日本におけるイソップ寓話の受容の歴史について研究している。主な論文に、「古活字版『伊曾保物語』の出版年代再考」(『国語国文』87-7号、2018年)、「『伊曾保物語』版本系統の再検討—B系統古活字本の本文異同を中心に—」(『近世文芸』106号、2017年)、「明治初期のイソップ寓話受容における『伊曾保物語』の影響について—渡部温編訳『通俗伊蘇普物語』を中心に—」(『超域文化科学紀要』21号、2016年)等がある。

### **生田 慶穂 (イクタ ヨシホ)**

(お茶の水女子大学 リサーチフェロー)

お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。博士 (人文科学)。現在は、同大学で、リサーチフェローを務める。専門は連歌。主要な論文に「『のけ所』にみる連歌百韻の行様と構成意識—良基と宗祇を比較して—」(『中世文学』63号 2018年6月)、「連歌式目と自注—宗祇・宗牧・紹巴の場合—」(『日本文学研究ジャーナル』8号 2018年12月)などがある。

### **PALLONE Cristian (パッローネ クリスティアン)**

(ベルガモ大学外国語外国文学外国文化学科 博士研究員)

2015年ローマ大学東洋研究学科・博士課程修了 (日本文学専攻)。現在、ベルガモ大学外国文学外国文化学科博士研究員 (日本語・日本文学)。研究テーマは江戸後期のポピュラー文学における口頭性・間テキスト性・トランスメディアである。

### **袁 葉 (YUAN Ye エン ヨウ)**

(コロンビア大学東アジア学部 博士課程 大阪大学 招聘研究員・特任研究員)

2011年、コロンビア大学東アジア学部にて修士号取得、現在博士論文執筆中。2016年より、大阪大学招聘研究員・特任研究員 (日本国際交流基金などの助成による)。専門は近世日中文学。特に江戸時代における中国俗語と俗文学 (「白話」「白話文学」) についての学術討論、文学想像、及び社会影響に注目している。論文は“Vernacular

Story in and as Archives: (Re) Making Xingshi yan Stories in Early Modern China and Korea” (Journal of Korean Studies、2019年10月号) など。学会発表は“Recording Our Time: A Late Ming Early Qing Publishing House and its Historical Concern” [Association for Asian Studies (AAS) 2019 デンバー年会、2019年3月] など。

### 柏原 康人 (カシワバラ ヤスト)

(大阪大谷大学 非常勤講師)

園田学園女子大学社会連携推進センター 学術研究員)

神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程単位取得退学。研究分野は日本文学、特に中世神話、宗教文芸、寺社資料調査。主要業績は「中世蟻通明神縁起の形成と展開」(『伝承文学研究』67号、2018年)、中山一麿と共著「木山寺所蔵の日光院・増長院旧蔵聖教と真鉢房無動」(中山一麿編『神と仏に祈る山—美作の古刹 木山寺社史料のひらく世界』法蔵館、2016年、) など。今回発表する覚城院は、中山一麿氏の科研「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」が悉皆調査を実施しており、発表者も数年前より調査に参加している。これまでの調査成果は、「覚城院における新安流の展開—無等止住期を中心に」(仏教文学会2019年度4月例会シンポジウム)、「金光寺僧行範の修学-覚城院蔵金光寺旧蔵聖教を中心に」(中山一麿編『寺院文献資料学の新展開 I』臨川書店、2019年)などで発表している。

### Gaye ROWLEY (ゲイ ローリー)

(早稲田大学法学学術院 教授)

オーストラリア生まれ。1984年オーストラリア国立大学アジア研究学部卒業、1987年日本女子大学日本文学研究科博士前期課程修了後、英国ケンブリッジ大学東洋学部で研究、1995年同大学で博士号取得後、2001年早稲田大学法学部助教授を経て、現在法学学術院教授。専門は日本文学、特に『源氏物語』受容史および女性史。主な著書に *Yosano Akiko and The Tale of Genji* (2000年)、*Autobiography of a Geisha* (2003年。増田小夜著『芸者 苦闘の半生涯』(平凡社、1957年)の英訳)、*The Female as Subject: Reading and Writing in Early Modern Japan* (共編著、2010年)、*An Imperial Concubine's Tale: Scandal, Shipwreck, and Salvation in Seventeenth-Century Japan* (2013年) などがある。正親町町子著『松陰日記』の英訳は *In the Shelter of the Pine* として2021年にコロンビア大学出版会により刊行される予定。

## 第43回国際日本文学研究集会プログラム

令和元年11月16日(土)

開会挨拶

ロバート キャンベル (国文学研究資料館長)

### 第1セッション

#### ▼研究発表

- ① 死を描く場面における「情動性」と「感情の共同体」：夕顔と紫の上を中心に  
KOMOVA Ekaterina (早稲田大学文学学術院リサーチ・フェロー  
コロンビア大学博士課程)
- ② 物語文学における「あざやか」な人物たち——『源氏物語』を中心に——  
馬 如慧 (早稲田大学文学学術院リサーチ・フェロー  
北京外国語大学日文学研究センター博士後期課程)
- ③ 平安朝文人における過去と現在の意識  
漢詩集序をテキスト遺産言説の一例として  
GERLINI Edoardo (早稲田大学文学学術院訪問学者)

### ショートセッション

- ① バトナム語の漢文訓読研究をどのように進展させるのか  
NGUYEN THI THU Huyen (富山大学大学院修士課程)
- ② ジェンダーと歴史の語り方——平安・中世における和文の問題点——  
McNELLY Kimberly (早稲田大学文学学術院リサーチ・フェロー  
UCLA 大学院博士後期課程)
- ③ アメリカにおける川端康成『山の音』の翻訳と受容  
早川 友実子 (早稲田大学大学院博士後期課程)
- ④ 桐野夏生作品をめぐる国際的な視座とその可能性  
駒居 幸 (筑波大学人文社会系特任研究員)
- ⑤ 漱石の『趣味の遺伝』の実験工房について  
TADDEI Marco (ベルガモ大学外国語外国文化学部日本語科  
日本語日本文学研究者)

### 第2セッション

#### ▼研究発表

- ④ 室町時代の能の構造解析——その積層性と多様性を中心にして——  
BUGNE Magali (早稲田大学所属日本学術振興会外国人特別研究員 PD  
日仏会館・フランス国立日本研究所(UMIFRE19フ  
ランス外務省・国立科学研究センター) 連携研究員)
- ⑤ 大蔵虎明『わらんべ草』の『伊曾保物語』受容  
李 澤珍 (東京大学大学院博士課程)

令和元年11月17日(日)

### 第3セッション

#### ▼研究発表

- ⑥ 連歌百韻の注釈・翻訳への提言——「切れ」と「付け」をどう表すか——  
生田 慶穂 (お茶の水女子大学リサーチフェロー)
- ⑦ 『妓者呼子鳥』の後続作品受容  
PALLONE Cristian (ベルガモ大学外国語外国文学外国文化学科博士研究員)
- ⑧ 近世日本の唐話学と訳学——「訳社」を中心に——  
袁 葉 (大阪大学特任研究員 コロンビア大学博士課程)
- ⑨ 近世地方寺院における住僧の修学と法流の展開——覚城院蔵聖教を例にして——  
柏原 康人 (大阪大谷大学 非常勤講師  
園田学園女子大学社会連携推進センター学術研究員)

### ポスターセッション (11月16日～17日)

- 横溝正史『執念』の考察——影響受容関係から独自のテーマへ——  
PARK Yeongseon (二松学舎大学大学院博士後期課程)
- 浪人のテキスト：忠臣蔵、クロスメディア化と江戸時代のファンサービス文化  
FOLEY Alicia (神戸女学院大学留学生・研究者  
ウイスコンシン大学マディソン校大学院博士課程)
- 軍記物語における「人間」の語の用例について  
楊 琴 (奈良女子大学大学院博士後期課程)
- 坂口安吾「Pierre Philosophale」考——神秘性と〈分身〉——  
藤田 絵理香 (埼玉大学大学院博士後期課程)

### 【特別講演】『松蔭日記』とその読者

Gaye ROWLEY (早稲田大学法学学術院教授)  
司会 海野 圭介 (国文学研究資料館教授)

◆第43回国際日本文学研究集会 参加者数のべ109名 (発表者含む)

## 令和元年度国際連携委員会委員名簿

委員長	坂本 信道	京都女子大学文学部教授
委員	勝又 基	明星大学人文学部教授
委員	河野 貴美子	早稲田大学文学学術院教授
委員	河野 至恩	上智大学国際教養学部准教授
委員	櫻井 陽子	駒澤大学文学部教授
委員	中村 ともえ	静岡大学教育学部准教授
委員	ビュールク・トーヴェ・ヨハンナ	埼玉大学人文社会科学研究科准教授
〈館内〉		
副委員長	齋藤 真麻理	研究部教授・国際連携部長
委員	山下 則子	副館長（企画調整担当）
委員	海野 圭介	研究部教授
委員	木越 俊介	研究部准教授
委員	ダヴァン・デイディエ	研究部准教授
委員	山本 嘉孝	研究部准教授
委員	ノット・ジェフリー	研究部助教